

第3章 結果の考察

結果の考察

今回の調査は、平塚市民の居留意向、生活の満足感、まちづくりに対する重要度や満足度に対する意識を調査し、今後、まちづくりを進めていくための基礎資料を得るとともに、平成28年度からスタートした「平塚市総合計画～ひらつかNEXT～」に基づいて実施している本市のまちづくりに対して市民がどのように感じ、どう評価しているかを把握することを目的として実施しました。このアンケートの結果により、次のことが明らかになりました。

■【1】 今後における平塚市への居留意向などについて（問1）～（問4）

【居留意向は約9割。住み続けたい理由は引き続き「温暖な気候や自然環境」が上位】

居留意向について

『今後の平塚市への居留意向』については、89.8%（前回調査86.5%）の方が「住み続ける」又は「たぶん住み続ける」と回答しました。住み続けようと思う理由としては「温暖な気候で、海、山、川に囲まれ、自然環境が良い」が5割を超えており、調査を開始した平成25年度から引き続き、平塚市への居留意向につながる大きな要素となっています。

また、住み続けようと思う理由として、前回調査から最も増加した項目は、「買い物がしやすい」で4.4ポイントの増加となりました。

移転意向について

一方、「移転する」又は「たぶん移転する」と回答した移転意向のある方は5.4%でした。その理由としては「仕事や学校へ通うのに都合が良くない」が最も多く、調査を開始した平成25年度から引き続き、移転意向の要因となっています。

また、前回調査から「買い物しにくい」との理由が5.2ポイント増加しています。居留意向でも「買い物がしやすい」が最も増加しており、「買い物のしやすさ」に対する関心が高くなっていると考えられます。

魅力や誇りについて

居留意向とは別に、『平塚市の魅力や誇りに感じることを伺ったところ、「総合公園などの施設の充実した大きな規模の公園」が43.0%と平成25年度調査から引き続き高い結果となりました。2位の「災害や犯罪が少なく、安心して生活できる環境」は、前回調査の4位から上昇するとともに、回答率の4.3ポイントの増加は、本設問の中で最も増加した項目となっています。

■【2】 生活の満足感や、困っていること・心配ごとについて（問5）～（問8）

【現在の生活に満足している方は7割以上。SNSの利用が幅広い世代で浸透】

生活の満足度について

『生活の満足度』については、「満足している」又は「まあ満足している」と回答した方が、73.3%で、前回調査から2.2ポイント増加しました。この割合は、70代以上が最も高くなっています。

「やや不満である」又は「不満である」と回答した方の割合は、30代が最も高く、次いで20代となっています。

社会とのつながりについて

『交友関係やコミュニティなど社会とのつながり』を伺ったところ、「満足している」又は「まあ満足している」と回答した割合は61.2%でした。この割合が10代では8割を超えています。

「やや不満である」又は「不満である」と回答した方の割合は、30代が最も高く、次いで40代となっています。

SNSの利用について

『SNSの利用頻度』は、「ほぼ毎日」が52.0%で最も多く、次いで「利用していない」が17.1%となりました。年代別に見ると10～60代では「ほぼ毎日」が最も多くなりました。70代以上では「利用していない」が35.2%で最も多くなっているものの、次いで「ほぼ毎日」が24.7%となっています。

『SNS上の友人数』は、「1～9人」が33.5%で最も多く、次いで「いない」が25.6%、「10～19人」が14.5%となっています。回答の48.0%を占めた「1～19人」の割合を年代別に見ると、26.0%（20代）から57.4%（50代）となっており、年代ごとに大きな差がありました。

SNSの利用と生活満足度・社会とのつながりについて

『SNSの利用頻度』と『生活満足度』又は『社会とのつながり』の関係を見ると（図表①）、SNSの利用頻度が「年に1回～月に2、3回」に比べて、「週に1回」では『生活満足度』及び『社会とのつながり』の満足度が高まり、これ以上の頻度では、横ばいから緩やかな上昇となります。

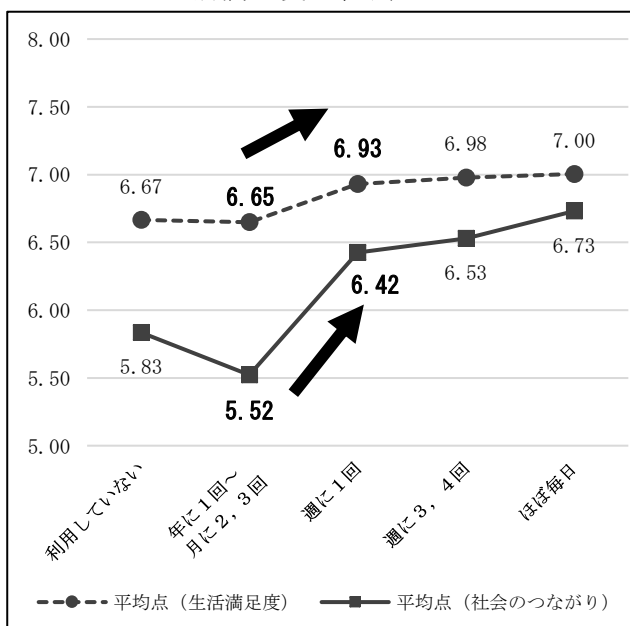
『SNS上の友人数』と『生活満足度』又は『社会とのつながり』の関係を見ると（図表②）、「いない」に比べて、友人数が増えると『生活満足度』及び『社会とのつながり』の満足度が高まりますが、「100人以上」になると『生活満足度』が低下しています。

SNSの利用に関するまとめ

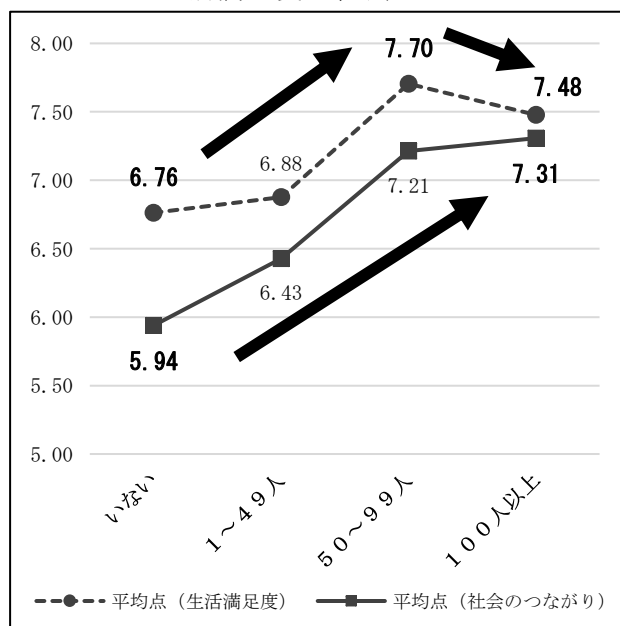
SNSの利用は、「ほぼ毎日」との回答が半数を超えており、幅広い世代に浸透していると考えられますが、SNS上の友人数は年代ごとに大きな差がありました。

SNSを利用することは、『生活満足度』や『社会とのつながり』を実感する手段となる可能性があります。しかし、SNS上の友人数が多すぎると、『生活満足度』を実感しにくくなると思います。

図表① SNSの利用頻度と生活満足度・社会とのつながり



図表② SNS上の友人数と生活満足度・社会とのつながり



※平均点は、問5及び問6において、「満足している」を10点、「まあ満足している」を7.5点、「どちらとも言えない」を5点、「やや不満である」を2.5点、「不満である」を0点として、算出している。

■【3】まちづくりの状況について（問9）

「平塚市総合計画～ひらつかネクスト～」に基づいて実施している本市のまちづくりに対して、市民がどのように感じ、どう評価しているかを把握するため、次のとおり分野別施策ごとに分類して伺っています。

分野①：豊かな心と文化をはぐくむまちづくり（問9-1～7）
分野②：安心して暮らせる支え合いのまちづくり（問9-8～17）
分野③：自然と人が共生するまちづくり（問9-18～23）
分野④：活力とにぎわいのあるまちづくり（問9-24～30）

○分野① 豊かな心と文化をはぐくむまちづくり

調査年度	分野	重要度(%)	満足度(%)
2022年度(今回)	分野① 豊かな心と文化をはぐくむまちづくり	68.0	13.7
2018年度(前回)	分野① 豊かな心と文化をはぐくむまちづくり	59.5	9.9

前回調査と比較して、重要度・満足度が共に、大きく高まった分野です。

分野①では、「子どもの学びの充実」、「教育環境の充実」、「青少年が健全に成長する環境」などの子どもに関する項目の重要度が高くなる傾向にあり、未来を担う子どもたちの確かな学力の定着や豊かな心を育成する環境づくりが強く望まれていると考えられます。

一方、分野①の満足度では、「男女共同参画や人権擁護など、自由で平等な地域社会の推進」のみ、満足（「十分満足」と「満足」の合算）と回答した割合が、不満足（「あまり満足していない」と「満足していない」の合算）と回答した割合を下回っています。誰一人取り残さず、誰もが活躍できる社会を目指して、さらに取組を進める必要があります。

○分野② 安心して暮らせる支え合いのまちづくり

調査年度	分野	重要度(%)	満足度(%)
2022年度(今回)	分野② 安心して暮らせる支え合いのまちづくり	79.2	18.2
2018年度(前回)	分野② 安心して暮らせる支え合いのまちづくり	69.2	14.6

前回調査と比較して、重要度・満足度が共に、大きく高まった分野です。

分野②では、「消防・救急の体制整備」、「日常生活の安心・安全」、「災害に強いまちづくり」の重要度が特に高く、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による意識の変化、自然災害の頻発化・激甚化など、日常生活や生命に直結する項目であることなどが理由として考えられます。

また、全30項目の中では、「消防・救急の体制整備」の満足度が最も高くなっているものの、「災害に強いまちづくり」の満足度は低くなっています。

「災害に強いまちづくり」を推進するためには、自治会等におけるコミュニティ活動の重要性の理解や、多くの住民参加と活動継続が不可欠である。地域での協力・信頼関係を再構築するため、

コロナ危機で自粛せざるを得なかったコミュニティづくりが活発になるよう後押しする必要がある。

また、「子育て支援の充実」や「健康づくりの推進」でも重要度が高い傾向となっています。

○分野③ 自然と人が共生するまちづくり

調査年度	分野	重要度(%)	満足度(%)
2022年度(今回)	分野③ 自然と人が共生するまちづくり	63.7	17.3
2018年度(前回)	分野③ 自然と人が共生するまちづくり	63.2	14.5

分野③は、重要度・満足度が共に、前回調査と比較して、大きな変化はありませんでした。

項目別に前回調査と比較すると、全6項目の重要度で「たいへん重要」又は「重要」と回答した割合が増加しています。

特に、全30項目の重要度において、前回調査と今回調査の順位を比較すると、「環境にやさしいまちづくり」が7位から6位へ、「循環型社会の形成」が14位から9位へ上昇するなど、環境分野に対する重要度が高まっています。2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラルを実現するために、脱炭素化に向けた取組を加速させる必要があります。

なお、この分野において、満足度が平均値を下回る項目は「交通の利便性の向上」のみとなっています。「交通の利便性の向上」の重要度は相対的に高く、本調査の自由意見においても多くの声が寄せられていることから、さらなる交通の利便性向上が求められていることが伺えます。

○分野④ 活力とにぎわいのあるまちづくり

調査年度	分野	重要度(%)	満足度(%)
2022年度(今回)	分野④ 活力とにぎわいのあるまちづくり	55.5	6.6
2018年度(前回)	分野④ 活力とにぎわいのあるまちづくり	55.0	5.7

分野④は、重要度・満足度が共に、前回調査と比較して、大きな変化はありませんでした。

分野①～④の中では唯一、満足度の全項目において、満足（「十分満足」と「満足」の合算）と回答した割合が、不満足（「あまり満足していない」と「満足していない」の合算）と回答した割合を下回っています。市民の関わりが薄く、国内の景気や世界経済の動向、物価変動など、外的要因の影響を受けやすい分野ではあるものの、引き続き産業分野全体のさらなる活性化に向けた取組が必要です。

また、満足度が低い「雇用の確保と働きやすい環境づくり」は、市民生活に大きく関わる分野であるとともに、本調査の自由意見でも子育て世帯の経済的な安定に関する声が寄せられているなど、重要な項目あることから、将来に不安を感じる事のない安定した生活基盤に向けた雇用の確保や学び直しによる技術の習得に加え、働きやすい環境づくりに向けた知識・理解の促進などの取組をさらに充実する必要があります。

■【3】まちづくりの状況について（問10）

- 重点①：強みを活かしたしごとづくり（問10-1～3）
 重点②：子どもを産み育てやすい環境づくり（問10-4～6）
 重点③：いくつになってもいきいき暮らすまちづくり（問10-7～9）
 重点④：安心・安全に暮らせるまちづくり（問10-10～12）

重点施策	重要（%）	重要ではない（%）
I 強みを活かしたしごとづくり	66.3	2.1
II 子どもを産み育てやすい環境づくり	81.5	1.9
III いくつになってもいきいきと暮らすまちづくり	74.6	3.1
IV 安心・安全に暮らせるまちづくり	84.9	0.7

重点施策Ⅰ 強みを活かしたしごとづくり

「重要」と回答した割合が最も低くなりましたが、本設問に対する自由意見では、産業分野に対して、最も多くの意見が寄せられています。分野④と同様に産業分野全体のさらなる活性化を目指すため、本市の特徴である集積した製造業の発展に向けた方策や本市の顔である駅周辺に対する民間の投資意欲を高め、土地利用の誘導、長期的な視点に立った都市基盤の整備、エリアマネジメントの仕組みづくりなどの視点などを加えた検討が求められています。

重点施策Ⅱ 子どもを産み育てやすい環境づくり

「重要」と回答した割合が2番目に高くなり、出生数の急速な減少や合計特殊出生率の低下などを受けて、少子化対策の必要性が高まっていると考えられます。

自由意見の中では、出産、育児に関する経済的な支援、小学校・中学校の教育環境の充実、子どもの貧困に対する支援を求める声が寄せられており、引き続き幅広く子育て分野での取組が望まれています。

重点施策Ⅲ いくつになってもいきいきと暮らすまちづくり

「重要」と回答した割合は4つの重点施策の中で3番目となりましたが、高齢化の進展を受けて、介護人材の確保、定年後の就労機会の拡大、認知症の予防に関する取組が望まれており、「重要」との回答が7割を超えています。

全国の傾向と同様に高齢化が進む本市でも、健康寿命を延ばして元気に生きがいを持って暮らせる社会、安心して暮らし続けられる地域づくり、地域包括ケアの推進を望む声が寄せられています。

重点施策Ⅳ 安心・安全に暮らせるまちづくり

頻発化・激甚化する自然災害や地震などの災害に対する備えや、さらなる治安の改善が望まれることから、「重要」と回答した割合が4つの重点施策の中で最も高くなりました。

自由意見では、台風や洪水、地震や津波などの災害対策、防犯対策などの治安向上、歩行者や自転車などの交通安全対策など、幅広く声が寄せられました。